

SSK 経営方針変更と修繕船用水量

1. 佐世保市第9期拡張事業 平成24年度再評価 水需要予測資料

佐世保市は2012年度再評価において、工場用水大口中のSSK工場用水需要量を、「佐世保市第9期拡張事業 平成24年度再評価 水需要予測資料」56ページに、「SSKでは経営方針変更に伴い、修繕船の売上高を約2倍見込んである。」として、

$$\begin{aligned}(\text{修繕船}) \text{ 計画給水量} &= 2,206 \text{ (m}^3\text{/日)} \times 2 \\ &= 4,412 \text{ (m}^3\text{/日)}\end{aligned}$$

とし、

$$\text{SSK 全体の計画給水量を SSK (小口) } 1,610 - (\text{従前のドック水量控除}) 331 + 4,412 = 5,691 \text{ (m}^3\text{/日)}$$

としている。

長崎県・佐世保市との「公開質問への回答説明会」において、長崎県・佐世保市は、「売上高約2倍見込んでいる」は「修繕船のシェア約2倍」の間違いであることを認めた。

しかし、事業認定処分庁がこの間違いを「佐世保市第9期拡張事業 平成24年度再評価 水需要予測資料」に反映させた上で、事業認定業務を進めた形跡は見当たらない。

2. 事業認定庁は上記平成24年度再評価結果を石木ダムの利水面での必要性としている。

1) 「事業認定処分の可否に関する事業認定庁の考え方」

石木ダム事業の事業認定理由として、「事業認定処分の可否に関する事業認定庁の考え方」2ページ下から4行目～2行目にかけて、

「また、佐世保市では、今後の生活用原単位の回復、観光客数の増加及び大口需要の企業経営方針の転換等に対応するため、更なる供給能力の不足が予測されている。」

としている。この記述は平成24年度再評価結果（佐世保市第9期拡張事業 H24年度再評価 水需要予測資料）に基づくものである。

2) 認定庁・九州地方整備局による、土地収用法第22条の規定に基づく意見徴取

認定庁・九州地方整備局は土地収用法第22条の規定に基づく意見徴取を小泉 明氏（首都大学東京特任教授）と滝沢 智氏（東京大学教授）から行っている。その際に両氏に添付した資料として、

- ・平成24年度 水道施設整備事業再評価 資料
- ・生活用水原単位の推計について
- ・業務営業用水(小口需要)の予測について
- ・SSKの水需要について
- ・負荷率の設定について

をあげている。（「土地収用法第22条の規定に基づく意見徴取について」3枚目）

すなわち、「SSKの水需要について」は、「修繕船事業中心に転換し、修繕事業を今後3ヶ年で倍増するとの経営方針が示されていた」ことを基調に据えている。事業割合ではなく、「修繕事業を今後3ヶ年で倍増」としているのである。

すなわち、両氏への意見聴取で提出された「SSKの水需要について」は、「修繕事業を倍増」としたままで、「修繕船のシェア約2倍」の間違いであると修正をしていないものであるから、認定庁は両氏に虚偽の資料に基づいた意見を聴取したことになり、違法である。

3. 「SSKは経営方針変更に伴い、修繕船の売上高を約2倍見込んでいない。」2倍になるのは艦艇修繕船シェアだけ

1) SSK 2012年10月25日に発表した「経営方針」

SSKが2012年10月25日に発表した「経営方針」は、**事業規模を縮小して経営を再建することが目的であった。**艦艇修繕船シェアを2011年実績の13%から2014年目標25%へとほぼ倍増とするが、総売上は2011年実績の661億円から2014年目標400億円に下方修正、2014年修繕船額を100億円としている。決して、艦艇修繕船事業を2倍に伸ばすことではない。2011年の修繕船額実績値は記されていないが、総売上額と修繕船シェアから計算すると、86億円になる。すなわち、2014年の修繕船シェア目標は2011年の13%から25%に倍増するが、2014年の修繕船額目標100億円は2011年実績(計算値)86億円の1.16倍に相当している。認定庁が認定して採用している、佐世保市の説明「2014年の修繕船額目標が2011年実績の倍増」には根拠がない。

2) SSK 2013年5月17日に発表した「経営方針」

SSKが2013年5月17日に発表した「経営方針」も、**事業規模を縮小して経営を再建することが目的であった。**決して、艦艇修繕船事業を2倍に伸ばすことではない。艦艇修繕船シェアを2012年実績の23%から2015年目標27%とするが、総売上は2012年実績の359億円から2015年目標360億円に維持、2015年修繕船額を95億円としている。2012年の修繕船額実績値は記されていないが、総売上高と修繕船シェアから計算すると、83億円になる。すなわち、2015年の修繕船シェア目標は2011年の13%から27%に倍増するが、2015年の修繕船額目標95億円は2011年実績(計算値)86億円の1.11倍に相当している。認定庁が認定して採用している、佐世保市の説明「2015年の修繕船額目標が2011年実績の倍増」には根拠がない。

3) SSKが佐世保市に提出した回答

SSKは佐世保市へ、2012年12月28日に「水需妥の将来見通しについて(回答)」と2013年4月8日に「水需給計画における将来見通しについて(回答)」、計2通の回答を提出している。

2012年12月28日の「水需妥の将来見通しについて(回答)」では、基本的な考え方として、「具体的には、艦艇・修繕船事業の事業構成比として、2011年度13%から2014年度25%へと今後3年間で約二倍の受注拡大を図ることといたしております。このため今後、艦艇・修繕知事業におけるドックでの水道水の使用については、これまで以上に大量の水道水を一時期に集中して使用することになります。」としているが、具体的な数値は明記されていない。

2013年4月8日の「水需給計画における将来見通しについて(回答)」では、「基本的には今回打ち出した経営方針に基づき事業を展開してこととなりますので、目標年次には艦船・修繕船事業の事業比率が現在の約2倍になるものと考えております。」「この「船体洗浄」作業が複数のドックで同時に行うことが想定されるということです。」、なお、具体的な水量データについては、弊社では把握しておりませんが、貴市において過去の修繕船での使用水量の実績をもとに分析され、ホ需給計画に計上されているとおり、最初の作業での水道水の使用水量については日量約2,000d程度の水量になるのではないかと考えております。」「以上のとおり、今後のドックの「薪たな運用」や「稼働率の上昇」による水量の増加や過去の修繕船における水使用の実態に加えて、今後の弊社の経営戦略等を考えますと、貴市で新規水量分として予測されている日量4,412m³/日は最低限確保していただきたい水量と考えております。」としている。

この2つの(回答)で共通していることは、

- ① 「艦艇・修繕船事業の事業構成比が目標年次には現在の約2倍になる」としている。
- ② 艦艇・修繕船事業数と予想売上高については記載がない。
- ③ 2012年12月28日回答では、「このため今後、艦艇・修繕知事業におけるドックでの水道水の使用については、これまで以上に大量の水道水を一時期に集中して使用することになります。」とし、数値では示していないが、これまで以上の大量の水道水を一時期に集中して使用するとしている。

2013年4月8日回答では、「この「船体洗浄」作業が複数のドックで同時に行うことが想定される。」とした前回答を佐世保市が数値で具体化し、「**貴市で新規水量分として予測されている日量4,412m³**は最低限確保していただきたい水量と考えております。」としている。

- ④ 「艦艇・修繕船事業数倍増」との記載はない。

2013年4月8日回答には、「なお、具体的な水量データについては、弊社では把握しておりませんが、**貴市において過去の修繕船での使用水量の実績をもとに分析され**、水需給計画に計上されているとおりに、最初の作業での水道水の使用水量については日量約2,000m³程度の水量になるのではないかと考えております。」、「貴市で新規水量分として予測されている日量4,412m³は最低限確保していただきたい水量」との記載があることから、4,412m³/日という数値はSSKではなく、佐世保市が算出した数値であることは確実である。

4) まとめ

以上をまとめると下記一覧表になる。

	SSK 経営方針 20121025		SSK新中期経営計画 20130517	
	2011実績	2014目標	2012実績	2015目標
艦艇修繕船シェア %	13%	25%	23%	27%
艦艇修繕船額 億円	表記なし	100	表記なし	95
シェアからの計算値 億円	85.93	100	82.57	97.2
(目標) 総売上高	661	400	359	360

艦艇修繕船売上げ額 2011年度との比率	1.16	1.11
----------------------	------	------

2012年SSK経営方針、2013年SSK経営方針、いずれにしても、修繕船シェアは2011年実績13%の倍増となっているが、修繕船目標額は1.11ないし1.16倍にしかになっていない。目標額に変更がない、ということは、修繕船受入れ目標艘数に殆ど差異がないことを示している。

以上より、認定庁が採用している「SSKでは経営方針変更に伴い、修繕船の売上高を約2倍見込んである。」「修繕船額目標が2011年実績の倍増」には根拠がない。

4. 基本的な問題

1) SSK経営方針

事業規模を縮小して経営を再建することが目的であった。新船事業の規模を縮小することで、艦船修繕船事業の事業比率が倍増しただけである。

2) 長崎県の誤謬「SSKでは経営方針変更に伴い、修繕船の売上高を約2倍見込んである。」の修正

長崎県・佐世保市との「公開質問への回答説明会」において、長崎県・佐世保市は、「売上高約2倍見込んでいる」は間違いであることを認めた。

しかし、それは事業認定処分がなされた後の話で有り、事業認定処分が見直された形跡はない。すなわち、事業認定処分が虚偽の資料に基づいてなされているのであるから、違法である。

3) SSKからの文書

SSKが佐世保市に提出した二つの回答では、「艦艇・修繕船事業の事業構成比が目標年次には現在の約2倍になる」としているが、「艦艇・修繕船事業数倍増」という趣旨の記載はない。さらに、(艦艇・修繕船ダブルドックインによる必要水量)日量4,412m³という数値は佐世保市が算出した数値であることは明白になった。

5. まとめ

- 1) 事業規模を縮小して経営を再建することが目的であった。新船事業の規模を縮小することで、艦船修繕船事業の事業比率が倍増しただけである。
- 2) SSK工場用水中の艦船修繕船事業用水水需要量日量4,412m³は佐世保市が数値化したものである。
- 3) SSKの「艦艇・修繕船事業の事業構成比が目標年次には現在の約2倍になる」が、佐世保市経由で「艦艇・修繕船事業が目標年次には現在の約2倍になる」と変身した。
- 4) 処分庁の事業認定作業過程では、事業構成比2倍が事業2倍として扱われた。

- 5) その結果として、「2艘同時にドックイン」のケースがパルス状に不定期でこれまでにはない頻度で出現すると想定し、「修繕船の受け入れによってパルスが出現するものであるため、あらかじめ時期を想定できるものではなく、ランダムに発生するものである。また、今後はこれまでにはない頻度で出現し、パルスの大きさも従来の2倍以上となる可能性があることから、全体の需要とは切り分けて個別に見込む必要が特にある。」（九地整から小泉・滝沢両氏への資料8ページ）となっている。
- 6) 「艦艇・修繕船事業が目標年次には現在の約2倍になる」等ということはSSKの経営方針から外れたことであるから、「艦艇・修繕船事業が目標年次には現在の約2倍になる」を前提にしたSSKに関する水需要予測は事実とかけ離れた夢物語、すなわち、偽証である。
- 7) 夢物語でしかなかったことは、以下に示す佐世保重工業H26決算、佐世保重工業H27決算が如実に示している。
- 8) 佐世保重工業H26決算に見る売上高の内訳は下記の表が示すように、2014年度（27年3月期）は39億円で、2012年度に立てた目標値100億円の4割でしかない。

(2) 売上高の内訳

(単位：百万円)

	新造船事業部	修繕船事業部	機械事業部	その他	合計
27年3月期	21,588	3,890	4,663	1,452	31,594
26年3月期	18,756	7,071	3,539	1,601	30,968

- 9)
- 10) 佐世保重工業H27決算に見る売上高の内訳は下記の表が示すように、2015年度（28年3月期）は48億円で、2013年度に立てた目標値95億円の5割でしかない。

(2) 売上高の内訳

(単位：百万円)

	新造船事業部	艦艇・修繕船事業部	機械事業部	合計
28年3月期	29,609	4,771	3,292	37,674
27年3月期	21,588	3,890	4,672	30,151